

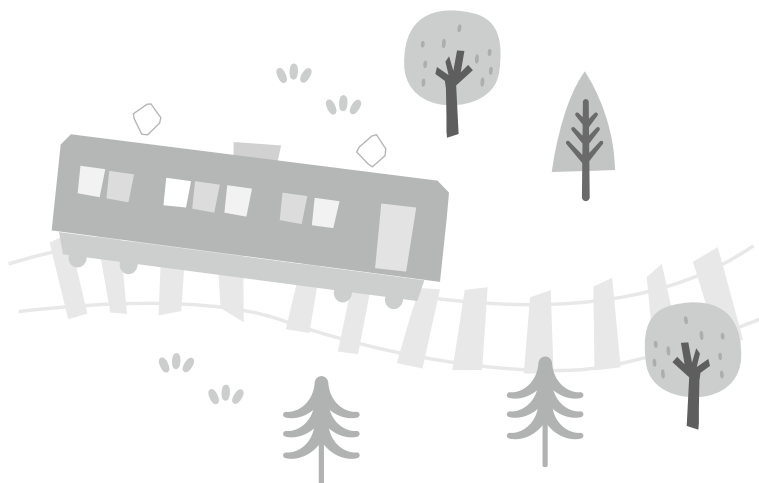


深津居宅介護支援事業所 事業報告

【月別ケアプラン作成件数】

	認定調査	要介護	要支援	合計件数
4月	0	104	47 (23.5)	127.5
5月	1	112	47 (23.5)	135.5
6月	2	110	42 (21)	131
7月	1	112	41 (20.5)	132.5
8月	1	106	32 (16)	122
9月	1	107	28 (14)	121
10月	1	109	26 (13)	122
11月	1	105	18 (9)	114
12月	3	109	17 (8.5)	117.5
1月	0	114	16 (8)	122
2月	1	112	15 (7.5)	119.5
3月	3	110	14 (7)	117
合計件数	15	1310	343 (171.5)	1481.5

※合計プラン数は予防プラン1件を0.5件として計算





深津地域包括支援センター 事業報告

(西宮市高齢者あんしん窓口深津)

【相談者別相談延件数】

	家 族	本 人	民生委員	地域団体	医療機関	ケアマネ	事業所	権利擁護 センター	専門機関	行政機関	その他	合 計
4月	35	18	1	0	9	12	2	0	2	9	3	91
5月	38	11	9	0	15	8	5	0	3	5	2	96
6月	48	14	7	0	11	11	6	0	3	7	2	109
7月	29	20	3	1	9	8	0	1	3	5	3	82
8月	33	19	4	0	11	12	1	1	4	9	7	101
9月	26	15	2	0	6	21	2	0	3	8	1	84
10月	39	24	10	0	12	14	0	0	2	3	7	111
11月	28	19	6	0	6	13	3	0	4	9	2	90
12月	29	15	11	1	13	14	2	0	1	6	4	96
1月	53	15	5	0	11	14	7	1	4	8	3	121
2月	37	22	7	0	14	18	3	0	0	1	10	112
3月	41	12	5	0	9	16	2	1	2	5	5	98
合 計	436	204	70	2	126	161	33	4	31	75	49	1191

【相談内容別相談延件数】

	介護に 関する 相談	医療・ 健康に 関する 相談	生活 (住居・ 経済等) に関する 相談	介護保 険制度 に関する 相談	施設に 関する 相談	高齢者 虐待に 関する 相談	権利 擁護に 関する 相談	認知症 に関する 相談	介護 予防 事業に 関する 相談	緊急 ショート ステイに 関する 相談	福祉 サービス に関する 相談	その他	相談 内容別 延件数 (合計)
4月	2	14	4	53	1	2	2	14	1	0	3	38	134
5月	1	18	8	56	6	0	6	12	1	0	3	39	150
6月	1	14	4	66	7	0	5	18	0	0	5	36	156
7月	0	5	5	44	2	0	5	12	1	0	4	29	107
8月	1	8	8	53	4	2	5	10	1	0	2	42	136
9月	1	4	9	48	2	0	5	9	1	0	2	34	115
10月	5	18	7	68	4	1	2	6	1	0	7	34	153
11月	3	16	17	65	9	1	7	8	1	0	1	32	160
12月	0	26	11	62	8	3	3	5	0	0	4	31	153
1月	2	27	5	71	9	1	8	10	0	0	5	45	183
2月	3	28	8	80	11	0	4	2	1	1	8	34	180
3月	6	19	7	65	9	2	0	7	1	0	2	37	155
合 計	25	197	93	731	72	12	52	113	9	1	46	431	1782

食事部門報告

目標

芦原デイサービスセンターは、豊かで安全な手作り給食を年齢に応じた好みの献立と栄養に配慮し提供しています。

方針

- ・利用者の咀嚼能力や味の好みなどを把握し、快適に食事を楽しんでいただきます。
- ・最適な状態で食事提供を行うために、適時適温を心掛け、調理、配膳を行います。
- ・高齢者、障害者の特性に留意した食事作りを行います。
- ・献立表やお食事だよりを掲示し、食に関する情報を提供します。
- ・旬の食材を活用し、食を通して季節を感じていただきます。また、彩りや器、盛り付けを工夫し、見て楽しい食事作りをします。
- ・調理に関わる職員は、衛生管理を徹底し、安全な食事を提供します。

管理

- ・安全な食事を提供するため、自主管理点検表を用いて調理担当者の健康状態をチェックします。また調理機器の状態把握、食品の検収、温度管理、水質管理を徹底します。
- ・調理担当者の健康と衛生に留意し、検便は毎月1回(6月～10月は月2回)実施します。

行事食

- | | |
|-----|-------|
| 4月 | お花見弁当 |
| 7月 | そうめん |
| 8月 | お盆 |
| 9月 | 敬老の日 |
| 12月 | クリスマス |
| 1月 | 成人の日 |
| 2月 | 節分 |
| 3月 | ひな祭り |





実習生受け入れ報告

【養成校実習】

養 成 校	実 習 区 分	期 間	人 数	延人数
関西学院大学	社会福祉士実習	R4.8.2 ～ 9.6	1 名	23 名
甲子園短期大学	介護実習	R4.11.2 ～ 11.11	2 名	14 名
宝塚医療大学	社会福祉士実習	R4.11.15	1 名	1 名
甲子園短期大学	保育実習	R5.2.13 ～ 2.24	1 名	10 名

【介護等体験・トライやるウィーク・その他の実習】

実 習 校	実 習 区 分	期 間	人 数	延人数
兵庫県社会福祉協議会	介護等体験	新型コロナウイルス感染症拡大により中止		
兵庫県社会福祉協議会	介護支援専門員実務研修	R4.7.18 ～ 7.22	1 名	2 名
西宮市立平木中学校	トライやるウィーク	R4.6.28 ～ 6.30	3 名	9 名
西宮市立深津中学校	トライやるウィーク	R4.10.17 ～ 10.21	2 名	10 名
西宮市立甲武中学校	トライやるウィーク	R4.11.28 ～ 12.2	4 名	20 名

【法人内職員交換研修】

派遣

事 業 所 名	期 間	人 数	延日数
西宮すなご医療福祉センター	R5.2.20 ～ R5.2.22	1 名	3 日

受け入れ

事 業 所 名	期 間	人 数	延日数
西宮すなご医療福祉センター	R5.2.20 ～ R5.2.22	1 名	3 日



内部研修報告

全体研修

履 修 日	研 修 名
R4.4	令和 4 年度事業方針説明会
R4.7.18・19・20	AED、救急救命研修
R4.8.17・26	KYT 研修
R4.12.12	理念・基本方針を読み解いてみた
R4.12.19・20	身体拘束排除の知識
R4.12.13・15	汚物処理
R5.1.27・28	ヒヤリハットとは
R5.2.20・21	防災研修





外部研修報告

高齢者通所介護事業所

履 修 日	研 修 名	履修人数
R4.6.10	福祉従事者新任職員研修（高齢者福祉）A コース	1 名
R4.10.4	リスクマネジメント研修	1 名
R4.11.10	ストレスマネジメント研修	1 名
R4.11.21	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修	1 名

障害者生活介護事業所

履 修 日	研 修 名	履修人数
R4.5.16	チームアプローチ実践研修	2 名
R4.6.13	人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修	1 名
R4.7.29	管理者のための障害者虐待防止研修	1 名
R4.8.31	安全運転管理者等講習	1 名
R4.9.1	阿倍野防災センターあべのタスカル見学	1 名
R4.11.29	コーチング研修	1 名
R5.1.16	福祉事業所における災害時 BCP	1 名
R5.1.16	「ケアマネージャーが知りたい！現場での法律知識」	1 名

深津居宅介護支援事業所

履 修 日	研 修 名	履修人数
R4.6.23	災害時に活用できる ICT 紹介	1 名
R4.7.19	65 歳問題！障害制度から介護保険制度への移行ケース	1 名
R4.9.7	第 1 回管理者研修会	1 名
R4.10.12	『そこまで言っていんかい？自己決定が尊重される支援とは』～現場での虐待対応～	1 名
R4.10.25 ～ R5.2.25	介護支援専門員更新研修	1 名
R4.12.6 ～ 12.7	日本福祉大学提携社会福祉法人 災害担当者研修	1 名
R4.12.16	定期巡回・随時対応サービス充実支援研修	1 名
R4.12.19 ～ 12.20	リスクマネージャー養成講座	1 名
R5.1.16	「ケアマネージャーが知りたい！現場での法律知識」	2 名

履 修 日	研 修 名	履修人数
R5.1.25	社会福祉法人連携におけるヤングケアラーの理解と支援	1 名
R5.2.21	防災研修	1 名
R5.3.9	ケアマネージャー研修	1 名
R5.3.15	若年性認知症研修	1 名

西宮市高齢者あんしん窓口 深津（深津地域包括支援センター）

履 修 日	研 修 名	履修人数
R4.8.18 ～ 10.5	主任介護支援専門員更新研修	1 名
R4.9.27	虐待対応従事者研修	2 名
R4.10.12	『そこまで言っていんかい？自己決定が尊重される支援とは』～現場での虐待対応～	1 名
R4.10.27	虐待対応従事者研修	2 名
R5.1.25	社会福祉法人連携におけるヤングケアラーの理解と支援	1 名
R5.2.21	福祉専門職のための成年後見制度勉強会	1 名





講座実施報告

講座名	絵手紙講座		実施曜日	第3月曜日	
実施計画	月ごとに季節に合った題材を選び描く 縁起物や野菜、果実などを題材に利用する				
実施内容	季節を感じることを大切に 絵手紙を製作し、利用者作品展に出展				
実施月	実施回数	参加人数（延べ）	実施月	実施回数	参加人数（延べ）
4月			10月		
5月			11月		
6月			12月		
7月			1月		
8月			2月		
9月			3月		

※新型コロナウイルス感染防止のため、実施できず

講座名	パソコン基礎講座		実施曜日	毎週火曜日	
実施計画	個々の技術に合わせて、パソコン操作の技術向上を図る				
実施内容	利用者に職員と指導員が付き、手紙やカレンダー、家計簿などの文章や表を作成する				
実施月	実施回数	参加人数（延べ）	実施月	実施回数	参加人数（延べ）
4月	0	0	10月	0	0
5月	0	0	11月	1	1
6月	0	0	12月	1	1
7月	0	0	1月	1	1
8月	0	0	2月	1	1
9月	0	0	3月	1	1

講座名	漢方整体		実施曜日	毎週金曜日	
実施計画	心身のリラックス				
実施内容	個別に 5 ～ 10 分程度、マッサージを実施 音楽を取り入れ、心身のリラックスを促す				
実施月	実施回数	参加人数（延べ）	実施月	実施回数	参加人数（延べ）
4 月	0	0	10 月	4	49
5 月	0	0	11 月	3	34
6 月	1	11	12 月	4	45
7 月	4	51	1 月	4	50
8 月	3	29	2 月	3	44
9 月	5	60	3 月	5	69

講座名	生け花		実施曜日	隔週金曜日	
実施計画	池け花を通して精神的な安らぎを得る				
実施内容	花の名前や種類を知り、個々の感性で制作 利用者作品展に出展				
実施月	実施回数	参加人数（延べ）	実施月	実施回数	参加人数（延べ）
4月			10月		
5月			11月		
6月			12月		
7月			1月		
8月			2月		
9月			3月		

※新型コロナウイルス感染防止のため、実施できず





実践研究発表

2022 年実践研究テーマ

「声掛けによっておこる心情の変化 ～入浴介助のアプローチ～」

芦原デイサービス 通所介護事業所

1. はじめに

デイサービスでは利用者が外出目的や他者との関わりによる孤立感の解消、心身機能の維持、家族の介護軽減などの目的で来所される。しかし、利用者の中には家からデイサービスへの環境の変化に戸惑いを覚え、帰宅願望や介護を断られる方もいる。

利用者がデイサービスの利用を重ね、スタッフの声掛けや他の利用者との関わりによって、どのような心情の変化がおこったかを入浴介助に焦点を当て利用者2名の考察を報告する。

2. 対象

1) K氏（77歳・男性） 週3回利用

要介護4 認知症なし

家族同居（妻）

実施期間 7月14日～9月22日

9月24日に入院の為中止

2) M氏（91歳・女性） 週2回利用

要介護2 認知症あり

家族同居（娘）

実施期間 7月15日～9月30日

両名ともコミュニケーション良好であるが、M氏は認知症の為、会話の飛躍や齟齬が見られる。また入浴誘導時に両名共、入浴を断る行為が見られた。

3. 方法

両名の清潔保持の為、来所ごとに入浴する事を目標として、方法と期間を2つの段階に分けて実践した。

1) 共通対応

実施期間 7月14日～7月末日

他の利用者と同じように入浴を促す声掛けをし記録する。

2) 個別対応

実施期間 8月初旬～9月末日

共通対応期間の記録を元に個別対応の実践を試行錯誤した。

4. 実践・考察

1) K氏のケース

(1) 共通対応実践

7月14日実践初日、来所してすぐに帰宅願望があり、7月11日から利用を開始して、まだ日も浅くデイサービスの雰囲気困惑している様子であった。

午前中に男性スタッフが入浴誘導すると「今日はええわ」と断られる。スタッフを変え、女性スタッフが入浴誘導をすると、椅子から立ち上がり脱衣所へと移動し入浴され、入浴介助は男性スタッフが対応した。

以降、共通対応実践期間中の入浴誘導時の反応は一旦断ってから入浴する場合とスムーズに入浴される場合の2パターンあり、断る場合は男性スタッフ、スムーズに入浴される場合は女性スタッフという傾向が見られた。

(2) 共通対応考察

共通対応の結果から、スタッフの性別による反応の違いが明確に見られた。しかし、入浴介助時には男性スタッフでも問題なく実施出来ていたため、誘導時のみ、性別の差が発生する原因を推測した。

K氏は妻と同居しており、妻の介助によって生活をしている。その為、同性である女性スタッフに慣れているが、男性スタッフには警戒心が大きく出ているのではと推測される。またスタッフとの会話記録から、「妻」という言葉が多く登場する。妻の話が多く出るのは「妻」への依存が強い傾向にあるのではないかと、期間内でも男性スタッフが「奥様」というワードを出すと、「そうか」と反応を示していた。

以上の事から個別対応の目的をどのスタッフでも入浴誘導が実施できるように、「奥様」を含む声掛けを行って反応を記録することにした。

(3) 個別対応実践

8月1日

午前中に男性スタッフが入浴誘導をすると「暑いからやめとくわ」と断られる。「暑いので入浴してさっぱりしましょう」「身体がきれいになると奥様も喜ばれますよ」という声掛けをしてみた所「そういう考えもあるな」と入浴意欲を見せ、脱衣所へ向かう。誘導途中に「この時間はフラフラする」「あんまりフラフラすると妻が怒る」と奥様の会話をスタッフにする。

9月22日

次に男性スタッフが入浴誘導を実践した日となる。午前中に入浴の声掛けをすると「はい」と入浴意欲を見せ入浴を実施している。

上記の2日以外は、女性スタッフの誘導によって入浴を実施していた。

(4) 個別対応考察

K氏は来所毎に入浴が実施出来た。

表1

	期間内の来所回数	期間内に入浴回数
7月	7回	7回
8月	10回	10回
9月	10回	10回

しかし、個別対応での目的であるどのスタッフでも入浴誘導を実施することは出来なかった。原因として、勤務シフトや一日の業務配置、芦原デイサービスにおけるスタッフ男女比率等が挙げられるが、一番の原因は時間と入浴実施を優先するあまりに女性スタッフに任せてしまったことである。

午前が無理であれば午後からの実施や、入浴担当でなくても、男性スタッフが声掛けに積極的に行くなど環境の構築不足であった。

少ない事例からの考察ではあるが、8月の時点での「妻」を含む声掛けは男性スタッフでもK氏の警戒心が少し薄れ、入浴意欲を引き出すきっかけや、話題の提供によるコミュニケーション形成には活用出来た。

9月に入浴誘導に関しては、8月～9月の間に20回来所されデイサービスに慣れたことや、スタッフに冗談を言うほど関係が構築されたものであり、当初あった性別の差の反応がなくなったものではないだろうか。

2) M氏の場合

(1) 共通対応実践

朝の挨拶をスタッフがすると、「今日ここに来たのは初めてです。よろしくお願いします」と何度も言われていた。

午前中に入浴誘導をすると「風邪をひいている」「医者から止められている」「帰らせてください」「娘から聞いてない」等の理由で断られ、スタッフが入浴の説明をしている内に徐々にやり取りに齟齬が生まれ表情の強張りや口調の強さなど興奮している様子が見られた。

午後からもう一度声掛けを実施、午前同様体調不良を訴える言葉が出るものの「お着替えだけでもどうですか？」と声掛けをすると「そうですか？」と前向きな返事を得られた。

しかし、脱衣所につくと「娘に迷惑がかかる」「鼻水が出る」など、再度断りの言葉が出る事が多く、スタッフや看護師が「大丈夫です」などの声掛けをして、7月の4回の入浴は14、15、21、22日の午後実施している。

(2) 共通対応考察

午前中に入浴誘導に拒否反応が強く出るのは、認知症症状の見当識障害によってデイサービスへ来たことが毎回リセットされ、いつも初めての場所に来ている為に不安や警戒心、緊張が強く働いている現れであり、脱衣所での断りが出るのも認知症症状の短期記憶障害の症状によるものでは無いだろうか。

また、興奮状態を引き起こしたのはスタッフの初期対応の間違いがあった。帰宅願望に対して、入浴して帰りたいと、本来では別問題である二つの事を一纏めにしてしまった為理解できずに混乱した結果に起きた現象であることが分かった。

逆に、午後に態度が軟化するのは、時間の経過による場所の認識、昼食を介してのスタッフや他利用者との会話等で緊張と警戒心の緩和、食事をとったことによる安心感など複数の要因によつての反応であると推測する。

よって、個別対応としては午前に入浴誘導を行い、断られたらそれ以上のやり取りはせず、一旦間を開けて午後に再度誘導を行う事とした。

(3) 個別対応実践

8月4日

午前中に入浴誘導をするが断られる。午後トイレに行かれた時に下着が汚れていたのでも「着替えませんか？」と声掛けをすると「そうですか？」と納得されたように入浴される。

8月5日

午前中に入浴誘導するが断られる。会話の中で「お風呂は嫌いですか？」というスタッフの問いに「体調がよければ、気持ちいいです」と入浴自体には嫌いではない。少し時間を置いて再度午前中に入浴誘導すると「先生（医者）がいいというのであれば」と言われたので、「看護師さんも大丈夫って言ってますよ。娘さんも着替えを用意してくれていますよ」と声掛けをすると「そうですか。では」と入浴される。

8月12日

午前中に入浴誘導をするが断られる。

5日と同じように再度午前中に入浴誘導をする。誘導する際に本人の鞆を持ってきて「娘さんから着替えを預かっていますよ」と声掛けをすると「はい」と言われて脱衣所へ向かわれる。着替えている途中に、下着が汚れていた

ので「入浴していただけますか？」と伝えると強い拒否反応を示されるが「下着が汚れているので体も念のために洗いましょう」という声掛けによって入浴されるが、洗髪は断られた。

8月18日

午前中に同じテーブルの利用者を入浴誘導する時に、一緒に行きませんかと声をかけてもらう。スタッフではなく、他利用者からのお誘いに戸惑いを見せるものの脱衣所へ移動するが、脱衣所で体調不良を訴えて入浴を断る。しかし、M氏に声をかけてくれた利用者が自分の隣の席においでと誘われると「そうですか？」と言われ一緒に入浴された。

8月19日

午前中に入浴誘導するが断られる。

この日は帰宅願望が強くとにかく帰りたいという訴えがあったので、個別対応に従って午後に再度入浴誘導。12日と同じように鞆を持ってきて「娘さんが着替えを準備してくれていますよ。バスタオルも入ってますね。お風呂に入って着替えましょうか？」と中身を本人と確認しながら声掛けをすると「そうですか？迷惑ではありませんか？」「大丈夫ですよ」「それなら行きます」と入浴された。

8月25日

午前中に入浴誘導するが断られる。

午後から19日と同様の声掛けをすると入浴された。

8月26日

午前中に入浴誘導すると「よろしいですか？」と入浴の意欲を見せ入浴された。

9月2日

午前中に入浴誘導するが断られる。

午後から8月19日と同様の声掛けをすると入浴された。

9月8日

8月18日と同様に同じテーブルの利用者からのお誘いを受ける。「調子があまり良くない」と言われていたが、他利用者と一緒に脱衣所に移動される。

脱衣所で「娘さんが着替えの準備をしてくださってますよ」と鞆の中身を本人と確認すると「感謝しないとね」と納得されていた。

9月9日

午前中に入浴誘導すると「風邪引かないですか？」と尋ねられたので「大丈夫ですよ」と応えると「そうですか」と意欲を見せて入浴された。

9月16日

午前中に入浴誘導すると「お風呂ですか？」と尋ねられたので「娘さんに頼まれています」と声掛けをすると「そうですか」と意欲を見せて入浴された。

9月29日

午前中に入浴するという声掛けではなく、少し歩きましょうに変えて、脱衣所まで一緒に歩く。脱衣所で他の人が服を脱いでる様子を見ると「風邪をひくのでやめておきます」と断られたが「風邪をひかないためにも温まりましょう」と声掛けをすると「そうですか」と入浴された。

9月30日

午前中に入浴誘導するが断られる。

午後から8月19日と同様の声掛けをすると入浴された。

(4) 個別対応考察

個別対応を実践したところ、入浴回数に変化が見られた。

表 2

	期間内の来所回数	期間内の入浴回数
7月	9回	4回
8月	7回	7回
9月	10回	10回

共通対応時に推測した午後からの入浴誘導によって、入浴された回数は8月3回、9月2回（9月は記録抜けあり）を記録している。

単純に午後から入浴誘導するのではなく8月4日と12日の記録が、その後の誘導の参考になった。

8月4日の対応で参考になったことは「本人が納得する」事である。下着が汚れたから着替えようと納得されたので入浴が実施できた。12日も同様の事例だが「鞆の中身を一緒に確認する」行為が入っている。これによって、M氏は声掛けだけで聞いていた「娘さんから頼まれている」という言葉を鞆の中身を確認することによって納得することが出来たのではないだろうか。その結果18日以降は、鞆の確認をするという行為で入浴されている。

また、M氏は同じテーブルの方と会話を交わして笑顔がこぼれていたこともあり、特に木曜日にその傾向が見られ一定の関係が築かれていたと推測される。

8月18日、9月8日の対応は、コミュニケーションを利用し、あの方が入るなら私も入ろうかなといったような外部にモチベーションを頼る外発的動機付けを用いたものであった。金曜日も来所されているので、金曜日の同じテーブルの利用者にも同じように誘って貰ったが誘いを断られた。木曜日と金曜日の違いの原因は、木曜日は同じテーブルの利用者がほぼ固定であり、皆さん会話を良くしている。金曜日は同じテーブルの利用者が固定されないことも多く、認知症症状によって、毎回初対面の方が同じテーブルにいるように感じている結果、誘われて一緒に行くほどの関係が築かれていないのではないだろうか。

8月の下旬からは、午前中の声掛けでも入浴されることが何度かあった。認知症であっても不快なことは覚えているのでデイサービスでの入浴経験は悪くないイメージを与えており、スタッフとの関係構築も良好であるための結果が反応として出ているように思える。

5. 結果

K氏M氏両名とも来所回数を重ねる内に当初デイサービスやスタッフに持っていた「警戒心」や「不安」「緊張」は徐々に薄れ「安心」を覚えてくれる様になったと入浴誘導の反応から感じられた。

ただ、K氏はほぼ女性スタッフによる誘導であったことが改善しなければいけない点である。現在入院中の為、今後再利用された時は、よりよいアプローチを試行していきたい。

M氏は様々な対応や反応を試行錯誤出来た。

特に曜日別の他利用者との関係性による外発的動機付けには、配席によってのコミュニケーションの重要性が浮き彫りになった。

利用者がテーブルや席が変わると難色を示すのは、自分の場所やコミュニティが取れない事に対する反応であり、利用人数や新規利用、追加利用などで配席が変更になる場合もあるが、スタッフはコミュニティの維持も頭に入れて配席しなければならない。

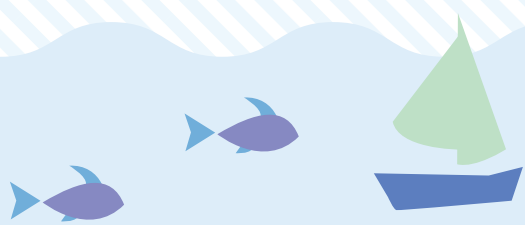
M氏は金曜日に活発にコミュニケーションが取れるようになることが課題として残っている。

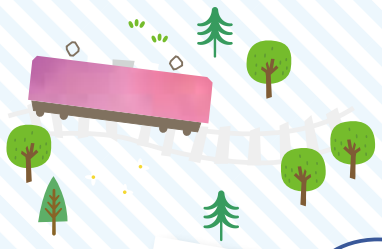
参考文献

- 1) 介護に重要なコミュニケーションとは
<https://www.mcsg.co.jp/kentatsu/kaigo/9435>
- 2) 日本の高齢既婚者を蝕む「見えない病」
<https://comemo.nikkei.com/n/n5250a33fb658?gs=a7d06c4ce578>
- 3) あの人がやるなら私もやる「外発的動機付け」
<https://happy lifestyle.com/25403>



写真で振り返る令和4年度の 芦原デイサービスセンター





勝負だ~!!

